

「新・神戸文化ホール整備基本計画(案)」に関する市民意見と神戸市の考え方

意見No.	意見本文	神戸市の考え方
1	地下鉄の駅から直接ホールに入館できるようにしてほしい。文化ホールには結構行くのですが、駅から直接ホールに入館できるととても便利だと思います。できたら高速神戸からもできたらと思います。	現在の文化ホールの改修は困難ですが、新しく三宮に出来るホールについてはデッキの整備等、駅からの分かりやすい動線確保につとめてまいります。
2	計画どおりで結構です。	新しいホールの整備にあたっては、市民の誰もが文化に触れることのできる機会を提供すること、また、市民の誰もが文化活動を実践できる環境を整えることを目標とします。また、これまで神戸文化ホールが担ってきた役割や利用者の思いなどを継承しつつ、国際都市神戸にふさわしい芸術文化の基幹施設として、「美しき港町・神戸の玄関口“三宮”」に移転し、輝ける神戸の未来に向けた「新たな価値を創り出す芸術文化創造拠点」をめざし、この基本計画に基づいて整備を進めてまいります。
3	神戸市に在住のクラシック音楽のファンです。音楽ホールの中止を聞き、大変残念に思います。コロナの影響で仕方ないとは思いますが、ソフト事業に注力されると聞き、期待しています。さて、音楽ホールの整備が中止になり、神戸市室内管弦楽団や神戸市混声合唱団のレジデント機能が中ホールに集約されると聞きました。中ホールができるまでの間、両団のレジデント機能はどうなるのでしょうか。せっかく新しい大ホールが先に整備されるのにもったいないように思います。少しでも早く新しいホールで活動できるような体制にしてあげた方がいいのではないのでしょうか。ぜひご検討よろしくをお願いします。	神戸市室内管弦楽団や神戸市混声合唱団が少しでも早く新しいホールで活動できるよう、レジデント機能については中ホールに限らず柔軟な対応を検討します。
4	700席程度の新中ホールは、演劇専用のホールとしてください。計画では神戸市室内管弦楽団や神戸市混声合唱団がレジデントとなっています。しかし、音楽用のホールは残響音が大きく、音楽用に設計される舞台、そこで、楽屋、搬入搬出などの設備からも演劇用には着しく不便となって、結果使えなくなります。これはオペラや舞踏、舞踊用にしても同じです。その逆に、演劇専用のホールとして作ると、音楽用他にも多目的に使用できます。現行の大倉山の中ホールが民芸の宇野重吉の助言も受けながら、演劇専用のホールとしてつくられた結果、演劇の他、音楽用など多目的に現に多用されていることが、いみじくもそれを証明しています。また、現行の大倉山の文化ホール、特に演劇や音楽も含めて多目的に使用できる中ホールを、今後10年と言わず、周辺地域の文化や商業、景観を守る意味からも、永く存続させてください。今後10年持たせるためには適当な時期にホールの改修が行われると考えますが、この改修工事を少しバージョンアップすることで、10年を超えて、永く保持できるものとすることができ、その方が実に効率的ではと考えます。また三宮とともに演劇ホールが増えることで、演劇祭など著名な劇作家や役者、劇団を招いての神戸から三宮までの多彩な広域イベントも可能になります。阪急西宮北口傍に県の芸術文化劇場ができたことで文化度が上がり、住みたい町No1になった西宮市の例の通り、より大規模な形で神戸市の文化度が上がり、より住みたい町となって活性化されます。どうかご検討ください。	【中ホールの詳細・進め方について】 雲井通5・6丁目地区再整備は雲井通5丁目地区(Ⅰ期)から段階的に実施される計画であり、雲井通6丁目北地区(Ⅱ期)の中ホールが整備されるのは2030年度以降を予定しております。 中ホールに求める機能の詳細については、雲井通6丁目の再整備計画と合わせて検討を進める必要があるため、指摘の音響面などについては、演目により適した音響を提供できるよう今後検討を行ってまいります。 【現文化ホールの跡地について】 中ホール移転後の大倉山地区全体については、全市的な視点により再整備の検討を進めていきます。
5	クラシック音楽を鑑賞するためのホールと、演劇や落語などいわゆる舞台芸術のためのホールとでは求められる残響時間や舞台設備などに基本的な違いがあり、ひとつのホールで両方を兼ねるのは、どちら付かずの中途半端なものになります。ホールの構造などで技術的に解決しようとすると高額な費用が必要になると思います。また区民ホールとしての利用も合わせるということですが、大ホールのリハーサル室を座席を設置したものにすることで使用希望数をこなすことが可能なのか、十分に検討をお願いします。中ホールのプラン、基本設計の検討にはホールを利用する演者、観客の代表、舞台設備設計の技術者などを加えた検討委員会の設置をお願いいたします。	【中ホールの詳細・進め方について】 雲井通5・6丁目地区再整備は雲井通5丁目地区(Ⅰ期)から段階的に実施される計画であり、雲井通6丁目北地区(Ⅱ期)の中ホールが整備されるのは2030年度以降を予定しております。 中ホールに求める機能の詳細については、雲井通6丁目の再整備計画と合わせて検討を進める必要があるため、指摘の音響面などについては、演目により適した音響を提供できるよう今後検討を行ってまいります。 【多目的スペースについて】 大ホールエリアの多目的スペースにつきましては、座席の設置など機能を拡充し整備します。なお、大ホールのリハーサル室につきましては、多目的スペースとは別に整備する予定です。
6	本年4月21日に突然発表された「音楽専用ホール設置中止」は、ショックでした。神戸文化ホールを大倉山から三宮に移転する整備計画の目玉ではなかったのか…。計画を積み上げてきた関係者、また音楽関係者の落胆の顔が浮かびます。計画の変更にあたって、Ⅱ期計画にあった「中規模ホール」がいつしか「中ホール」と名を変え、これまで「ダンス、演劇、伝統芸能など」生で演ずる芸術に配慮してきたものに、音楽的なものが加わることで現・文化ホールが抱える残響音の問題が起きることを強く懸念しています。つきましてはⅡ期にできるホールは、これまで以上に「演劇に適した劇場」を目指し、中途半端な多目的にならないよう要望いたします。 以下、Ⅱ期に予定されている「中ホール」に対する要望を挙げます。 ・ 2年前の意見募集でも述べましたが改めてⅡ期計画の検討に、演劇鑑賞会及び劇団などの意見を反映する場を設けてください。 ・ 残響音など技術的な問題に対しては、演劇関係者の声を聞いてください。 ・ 客席のキャパは計画の700席程度が妥当だと思います。ただし、椅子は固定式とし、舞台の観やすさに配慮してください。2Fバルコニー席の設置は見にくく全く不必要です。 ・ 舞台の広さは客席と同程度を確保し、両袖とも舞台並の広さを、また演出に充分必要な高さを確保してください。劇場内は黒を基調とし、暗闇が演出できることが大切です。 ・ 舞台上に吊り上げる反響板は演出上極めて使いにくいものにするため設けなでください。また吊りバトンの数も大切な要素となります。舞台関係者と相談して、設置してください。 ・ 楽屋は、現・文化ホール並の大・中・小の合計7室程度が妥当だと思います。また楽屋の位置は、舞台裏が適切で、舞台と離れたりしないよう求めます。特に、階が違ったりするのは最悪です。 ・ ホワイエには装飾などの豪華さは必要ありません。十分な広さを確保し、来客者(市民)が憩える空間、交流できる場として活用していきましょう。 ・ オープン後の運営、市民にとって使いやすい使用料金や時間が必要です。その上で、「文化ホール」の名に相応しく、芸術文化を育てる運営方法を求めます。 ・ 将来的な大倉山の文化ゾーンをどうするか、じっくり考え、対話を重ねていきましょう。 担当部局の頑張りを市民は見ています。作る以上は「いいものを」、気持ちは同じです。将来に禍根を残さない文化政策を求めます。	【音楽ホールの見直しについて】 コロナ禍により文化芸術・エンターテインメント業界は厳しい状況が続いており、その支援や活躍の場を確保する取り組みが喫緊の課題となっています。 また、コロナ禍の中で舞台芸術、とりわけ音楽の提供方法が多様化され、例えば無観客公演での動画配信や、屋外など様々な場所における演奏機会の増加など、計画策定時から様々な状況の変化が生じており、その変化に対応していく必要があると考えています。 そのため、雲井通5・6丁目地区再整備のⅡ期で整備する中ホールにおいて音楽・舞台芸術の両機能を充実させることで、Ⅰ期の大ホールと合わせて現文化ホールが担ってきた機能・役割を継承するとともに、オンライン配信や映像技術など、最新技術を積極的に活用することにより、これからの多様な利用形態に対応していきたいと考えています。 同時に、コロナ禍で生じた文化行政ニーズに対応し、神戸の文化芸術に関わる多くの関係者の活躍の場を守るため緊急支援策を実施しているところですので、ご理解いただきますようお願いいたします。 【中ホールの詳細・進め方について】 雲井通5・6丁目地区再整備は雲井通5丁目地区(Ⅰ期)から段階的に実施される計画であり、雲井通6丁目北地区(Ⅱ期)の中ホールが整備されるのは2030年度以降を予定しております。 中ホールに求める機能の詳細については、雲井通6丁目の再整備計画と合わせて検討を進める必要があるため、指摘の音響面などについては、演目により適した音響を提供できるよう今後検討を行ってまいります。 【運用面について】 各ホールとも、現在の文化ホールの利用を継承することを基本としておりますが、「新たな価値を創り出す芸術文化創造拠点」となるために、積極的な事業及び活動を実践していくことも基本計画の中で掲げております。それに相応しい運営となるよう、今後詳細な検討を行って参ります。 【現文化ホールの跡地について】 中ホール移転後の大倉山地区全体については、全市的な視点により再整備の検討を進めていきます。
7	いつも神戸市民の文化発展のためご尽力いただき感謝申し上げます。 神戸新聞4月22日付けで市役所2号館新庁舎に建設予定の音楽ホールが中止になったニュースを見ました。理由は予算不足との事でした。コロナで仕方ないでしょう。しかし、三宮再開発のバスターミナルⅡ期の中ホールは「舞台芸術利用が中心で区民ホールを兼ねたもの」と理解していたのに、突如「音楽・舞台芸術」の充実で、音楽ホールと演劇との共用は無理でしょう。人の生を直接耳で聞く演劇と残響を活かす音楽とは、同じホールでは無理でしょう。以前音楽ホールで演劇を観ましたが役者のセリフが、わんわん響いて聞きとれなくて困りました。恐らく講演会なども難しいのではないのでしょうか。 神戸市には混声合唱団、室内管弦楽団があり、練習の場や定期公演の会場が必要な事も理解しています。ただ、神戸市内には大倉山の文化ホール以外に公演会場は他にも沢山あります。例えば、なでしこホール・ピフレホール・あじさいホール・神戸新聞の松方ホールもあります。立派なピアノもあります。また、区の文化センターも小規模ですがコンサートが可能ですが演劇となると大倉山の文化ホール以外無いのです。 再開発の三宮Ⅱ期の中ホールは「舞台芸術利用の劇場」にして下さい。「音楽の街・神戸」と言われますが、音楽は優遇されて欲張りと思えませぬ。楽団のレジデント機能はⅠ期大ホールの「多目的スペース」を利用では駄目ですか？パブリックコメントの募集期日が7/30でしたので、今日を逃すと後悔すると思い書きました。4.0年近く神戸演劇鑑賞会でお芝居を観てきた私です。完成まで頑張って生きたいです。	【中ホールの詳細・進め方について】 雲井通5・6丁目地区再整備は雲井通5丁目地区(Ⅰ期)から段階的に実施される計画であり、雲井通6丁目北地区(Ⅱ期)の中ホールが整備されるのは2030年度以降を予定しております。 中ホールに求める機能の詳細については、雲井通6丁目の再整備計画と合わせて検討を進める必要があるため、指摘の音響面などについては、演目により適した音響を提供できるよう今後検討を行ってまいります。 【レジデント機能について】 神戸市室内管弦楽団や神戸市混声合唱団のレジデント機能については中ホールに限らず、柔軟な対応を検討します。
8	大倉山の神戸文化ホール(中)は、演劇を中心とした多目的ホールです。その素晴らしいホールで、神戸演劇鑑賞会の会員として長年演劇を楽しんできました。自分自身の生活において、演劇は必要不可欠なものとなっています。 文化ホールの老朽化に伴う移転建て替えに関し、雲井通5・6丁目地区再整備(Ⅱ期)に演劇ができる中規模ホールが整備されると聞き、現文化ホール(中)以上の「演じやすい、観やすい、使いやすい」市民の集う劇場が実現されると期待しております。 今回発表された「新・神戸文化ホール整備基本計画(案)」の改定では、中ホールの機能を舞台芸術利用から本格的な音楽利用にも対応し、神戸市室内管弦楽団や神戸市混声合唱団のレジデント機能を有するよう計画を変更するというもの。発表された中ホールの基本性能を見ますと、舞台上に可動式の音響反射板を設けるということが追加されています。演劇と音楽では、音響設備が全く異なります。「ダンス、演劇、伝統芸能、音楽などの様々な発表の場として、幅広いニーズに対応できるホールとなるよう計画します」とありますが、これでは多目的=無目的なホールとなってしまいます。音楽は音楽ホールで、演劇は演劇専用ホールで、が時代の趨勢です。2030年度以降に完成する中ホールが、旧態依然とした多目的ホールでは時代に逆行してしまいます。輝ける神戸の未来に向けて、音楽と演劇それぞれの用途に応じたホールの実現を、今一度再考していただきたいです。	雲井通5・6丁目地区再整備は雲井通5丁目地区(Ⅰ期)から段階的に実施される計画であり、雲井通6丁目北地区(Ⅱ期)の中ホールが整備されるのは2030年度以降を予定しております。 中ホールに求める機能の詳細については、雲井通6丁目の再整備計画と合わせて検討を進める必要があるため、指摘の音響面などについては、演目により適した音響を提供できるよう今後検討を行ってまいります。

9	<p>コロナによる在り方の変容は、芸術文化を取り巻く環境も例外ではなく、その後の世界を見据え、基本計画を見直すことは必要なことだと思います。コロナを理由に「改善」されるのは歓迎ですが、くれぐれも「改悪」されませんよう、お願いします。</p> <p>コロナの影響とは言え、5回目の検討委員会を経てようやく生み出された整備基本計画。その実現にむけ、動き出されていた最中の「音楽ホール設置中止」の決断、それに伴う大幅変更を余儀なくされた関係者の皆さんの無念はいかばかりかとお察しいたします。</p> <p>・音楽専用ホールの中止について 当初の計画案では、音楽ホールのみだったのが、最終的に、もう一つ演劇等ができる多目的ホールの設置が追加され、結果、大ホール、中ホールの3つの新しいホールができることとなっていた。神戸には、特に中ホールのような規模のホールが他になく、かつ専門性の高い特色あるホールが誕生するという点で、非常に楽しみにしていた。そもそも、神戸市はレベルの高い混声合唱団・室内管弦楽団をもって、「音楽の街神戸」をアピール。それらのホームグラウンドとしての「音楽ホール」という意味合いが強かったように思う。当初案では「音楽ホール」だけ、だったのもそのこだわりゆえだったのではなかったか。しかしながら、今回の基本計画案には、その変更の理由が具体的に示されず、「コロナ」と「臨港地区の整備充実による人流変化」による見直しとしか書かれていない。よりよいホール創りのために、当初3回だった検討委員会は全5回まで延長され、その結果の計画案。それが上記の理由だけで、変更されたのであれば残念。人や文化の醸成は、目に見える「秤」だけでは測れない。何が優先されたのだろうか。</p> <p>・マルチスペース 読む限りでは、色んな機能や役割があるようなフリースペース。なので、仕様や形態などもっと具体的に明示して欲しい。</p> <p>・中ホール それぞれ違う個性の2つの中ホールが魅力だったのに、限られた空間にそれらを合わせる（反響板も設置）となると、結局は最大公約数的な無目的な箱にしかならないのではないかとはいえ、元々、市内には同規模代替施設がない中で、利用が集中してしまう。引き続き、より多くの市民、利用者の意見を反映させるため、直接、説明・意見交換ができる場を設け、時間をかけて議論を積み重ねてほしい。</p>	<p>【音楽ホールの見直しについて】 コロナ禍により文化芸術・エンターテインメント業界は厳しい状況が続いており、その支援や活躍の場を確保する取り組みが喫緊の課題となっています。</p> <p>また、コロナ禍の中で舞台芸術、とりわけ音楽の提供方法が多様化され、例えば無観客公演での動画配信や、屋外など様々な場所における演奏機会の増加など、計画策定時から様々な状況の変化が生じており、その変化に対応していく必要があると考えています。</p> <p>そのため、雲井通5・6丁目地区再整備のⅡ期で整備する中ホールにおいて音楽・舞台芸術の高機能を充実させることで、Ⅰ期の大ホールと合わせて現文化ホールが担ってきた機能・役割を継承するとともに、オンライン配信や映像技術など、最新技術を積極的に活用することにより、これからの多様な利用形態に対応していきたいと考えています。</p> <p>同時に、コロナ禍で生じた文化行政ニーズに対応し、神戸の文化芸術に関わる多くの関係者の活躍の場を守るため緊急支援策を実施しているところですので、ご理解いただけますようお願いいたします。</p> <p>【中ホールの詳細・進め方について】 雲井通5・6丁目地区再整備は雲井通5丁目地区（Ⅰ期）から段階的に実施される計画であり、雲井通6丁目北地区（Ⅱ期）の中ホールが整備されるのは2030年度以降を予定しております。</p> <p>中ホールに求める機能の詳細については、雲井通6丁目の再整備計画と合わせて検討を進める必要があるため、指摘の音響面などについては、演目により適した音響を提供できるよう今後検討を行ってまいります。</p>
10	<p>中ホールを演劇専用ホールにすべきです。音楽ホールは神戸市内にはたくさんあります。多目的ホールにする音響が演劇に適さないホールになってしまいます。今の文化ホール（中）がなくなれば神戸市には演劇をするホールがなくなってしまいます。狂言、能、舞踊などにも適した演劇ホールをつくり、神戸市を素晴らしい文化都市にしたい。また、文化ホール建設時の宇野重吉さんのような演劇関係者の助言をいただきたい。つくってほしい。</p>	<p>雲井通5・6丁目地区再整備は雲井通5丁目地区（Ⅰ期）から段階的に実施される計画であり、雲井通6丁目北地区（Ⅱ期）の中ホールが整備されるのは2030年度以降を予定しております。</p> <p>中ホールに求める機能の詳細については、雲井通6丁目の再整備計画と合わせて検討を進める必要があるため、指摘の音響面などについては、演目により適した音響を提供できるよう今後検討を行ってまいります。</p>
11	<p>以下、3点を取り入れた新しい中ホールの建設、および運営を求めます。</p> <p>1) 現在の神戸文化ホールの中ホールが担う「演劇を中心とした」ホールの役割を発展させる。具体的には、演劇に適したホールとするために、音楽ホールとしての機能を従とする。具体的には、A) 音響反射板を廃し、舞台バトンで40本程度配備した舞台とする。B) 舞台袖、搬入口、舞台上の高さ、楽屋敷楽屋配置、通路幅など、演劇劇場としての考慮を取り入れた設計とする。</p> <p>2) 舞台・客席、音響、照明の基本設計においては、劇場設計の経験者や演劇人等の専門家を加えた、設計検討会を設けて、施工実施者の設計の具体的内容について、チェックできる公開された体制を整備する。</p> <p>3) 完成後の運営においては、利用者（利用団体）で構成する運営委員会方式として、レジデント機能の対象である特定の団体が優先的に利用日を確保することの無いような運営とする。</p> <p>以上</p>	<p>【中ホールの詳細・進め方について】 雲井通5・6丁目地区再整備は雲井通5丁目地区（Ⅰ期）から段階的に実施される計画であり、雲井通6丁目北地区（Ⅱ期）の中ホールが整備されるのは2030年度以降を予定しております。</p> <p>中ホールに求める機能の詳細については、雲井通6丁目の再整備計画と合わせて検討を進める必要があるため、指摘の音響面などについては、演目により適した音響を提供できるよう今後検討を行ってまいります。</p> <p>【レジデント機能について】 神戸市室内管弦楽団や神戸市混声合唱団のレジデント機能については中ホールに限らず、柔軟な対応を検討します。</p> <p>【運用面について】 各ホールとも、現在の文化ホールの利用を継承することを基本としておりますが、「新たな価値を創り出す芸術文化創造拠点」となるために、積極的な事業及び活動を実施していくことも基本計画の中で掲げております。それに相応しい運営となるよう、今後詳細な検討を行って参ります。</p>
12	<p>●第Ⅱ期工事にに向けた検討委員会のようなものが設けられるならば、音楽関係者だけでなく、演劇など「声」を届ける舞台芸術の関係者も積極的に複数人を入れてほしい。演劇鑑賞会、親子劇場など地元劇団も検討委員に入れてほしい。</p> <p>●音楽が求める機能（例えば、音楽は響いた方がよい）と、演劇・落語・詩吟といった「声」を届ける舞台芸術が求める機能は全く異なります。相容れません。講演会なども「声」が言葉としてきちんと届く必要があります。「幅広いニーズにフレキシブルに対応できるホール」とありますが、逆に結局ニーズにこたえられず使い勝手の悪いホールとなり、利用しにくくなると思います。音響反射板を設置した劇場と設置しない劇場を設けるべきだと思います。</p> <p>それぞれに適した、それぞれにとって機能的な劇場となるよう、「声」を届ける舞台芸術にももっと注力してほしい。</p> <p>●民間かもしれませんが、神戸市内には、松方ホール、あじさいホールなど音楽に適したホールは複数ありますが、演劇に適した劇場は現在の神戸文化ホール中ホールしかありません。神戸市室内管弦楽団や神戸市混声合唱団の拠点となる音楽ホールは、既存の音楽に適したホールを機能向上して拠点にできないのでしょうか。</p> <p>●舞台上で演じる人や講演する人にとって機能的、観客にとって機能的なホールが最も使い勝手が良く、使いたい、行きたいホールになります。</p> <p>外観、内装、デザインなど見た目よりも、演者側を良く知った専門家の声を十分に聴いた設計をしてほしい。</p>	<p>【中ホールの詳細・進め方について】 雲井通5・6丁目地区再整備は雲井通5丁目地区（Ⅰ期）から段階的に実施される計画であり、雲井通6丁目北地区（Ⅱ期）の中ホールが整備されるのは2030年度以降を予定しております。</p> <p>中ホールに求める機能の詳細については、雲井通6丁目の再整備計画と合わせて検討を進める必要があるため、指摘の音響面などについては、演目により適した音響を提供できるよう今後検討を行ってまいります。</p> <p>【レジデント機能について】 神戸市室内管弦楽団や神戸市混声合唱団のレジデント機能については中ホールに限らず、柔軟な対応を検討します。</p>
13	<p>新しいホールができることを楽しみにしています。ただ、舞台芸術だけでなく、書道や絵画など、平面芸術にも注力していただきたいです。</p> <p>現在、神戸市内では大規模な美術展が開催できる公的なギャラリーは県立の原田の森ギャラリー（灘区）や県民アートギャラリー（県庁前）ぐらいしかなく、三宮周辺には全くありません。以前は、市役所1号館に市民ギャラリーがありましたが、それも庁舎建て替えに伴い、利用できなくなりました。</p> <p>新しいホールには、ロビーを活用するなどして様々な文化芸術の交流拠点としての役割も担っていただくなど、平面芸術の活動の場の整備を要望します。</p>	<p>芸術鑑賞が出来る公的ギャラリーは都心部においても必要であると考えています。今後、三宮再整備の中でどのようなことができるか検討していきたいと考えています。</p>